

糖尿病・内分泌内科専攻医研修カリキュラム

1 研修目標

主要な代謝内分泌疾患（糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、間脳下垂体疾患、副腎、性腺疾患など）の診断、治療、生活指導ができるようになるための能力を身につける。

(A コース)：日本糖尿病学会認定の日本糖尿病学会専門医と日本内分泌学会認定の日本内分泌学会内分泌内科専門医の資格を取得するための3年間のストレート研修

(B コース)：A コースの研修をしながら、総合診療科や腎臓内科、その他の内科と並行して行う研修

(C コース)：卒後初期研修で十分研修できなかった一般臨床医としての糖尿病内分泌疾患患者管理を研修するため3～6ヶ月単位での当科のローテーション研修

2 研修内容

(A コース)

1年目から年間120症例以上の糖尿病内分泌疾患入院患者を主治医として日本糖尿病学会指導医や専門医、日本内分泌学会指導医、専門医とともに受け持つ。また、1週間の間に1～2日外来診療を行う。そのうち1日は終日外来で患者数約40～50人、もう1日は午前中のみで約20人。適時、指導医から専門医外来の診療に関し指導を受ける。

3年間を通じて、糖尿病教育入院患者の講義が割り当てられ、また、糖尿病患者会などにも参加する。月曜日から金曜日まで、糖尿病教育入院患者と、それ以外の患者に分けて、糖尿病内科の回診があり、受け持ち患者以外の患者に関しても、指導医、専門医の指導をうけることができる。

3年間を通じ、糖尿病内分泌疾患の診療のみでなく、症例報告や臨床研究なども行い糖尿病専門医、内分泌内科専門医として、学会発表、患者教育に関してもマネジメントできるような能力を身につける。

また、2次救急、3次救急の糖尿内科のオンコール待機が割り当てられる、糖尿病内分泌疾患における、救急診療についても研修することができる。また、指導医、専門医と共に頸動脈エコー、甲状腺エコーを行い習得し、甲状腺腫瘍のマネジメントを学ぶ。

1) 1年次

- (1) 代謝内分泌疾患の診察法
- (2) 糖尿病、内分泌疾患に関する検査の実施と理解
- (3) 内分泌腺形態検査の適切な指示と理解
- (4) 代謝内分泌疾患の診断
- (5) 治療（糖尿病の食事、運動療法、血糖降下剤、インスリン、低血糖昏睡、高血糖昏睡、抗甲状腺剤、甲状腺剤、副腎皮質ホルモンの使用法、高脂血症の食事、薬物療法）

2) 2年次

- (1) 糖尿病細小血管障害に対する管理
- (2) 糖尿病大血管障害に対する管理
- (3) 外科手術前後の糖尿病の管理
- (4) 糖尿病妊婦の管理

- (5) CSII
- (6) CGM の臨床応用

3) 3年次

- (1) 特殊な糖尿病の管理
- (2) 稀な内分泌疾患の診断と治療
- (3) チーム医療の指導

(C コース)

3ヶ月間で約30症例以上の糖尿病内分泌疾患入院患者を主治医として日本糖尿病学会指導医や専門医、日本内分泌学会指導医、専門医とともに受け持つ。

受け持ち患者の疾患は(Aコース)と同じであり、糖尿病内分泌疾患の診断治療の基本を学ぶ、またどのような症例を専門医に紹介受診させる必要があるか判断できるようにする。研修期間が短いため、定時の外来診療は行わないが、2次救急、及び3次救急の糖尿内科のオンコール待機は割り当てられる。また、糖尿病教育入院患者の講義も行う。

3 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス、 回診	カンファレンス、 回診	カンファレンス、 回診	甲状腺、頸部エコー、 回診	カンファレンス、 回診
午後	甲状腺、頸部エコー	甲状腺、頸部エコー	甲状腺、頸部エコー エコー下生検	エコー下生検	甲状腺、頸部エコー

週1~2日外来診療が割り当てられる。

- * 毎週水曜日 17:00 内科カンファレンス
- * 毎週月曜日 18:00 糖尿病内科カンファレンス
- * 教育入院第2週 17:30 教育入院カンファレンス

4 評価項目

専攻医の診療研修に際しては原則的に指導医の管理下にて行われ、指導医が学会出張、診療支援等にて直接指導できない場合は当科の常勤医があたるものとする。また、指導医は(Aコース)の場合は1年毎、(Bコース)の場合は研修前後において次項の研修目標到達評価を行い、すべての研修目標項目が目標に到達するように指導を行う。

糖尿病・内分泌内科専攻医研修目標到達項目

A:目標に到達 B:目標に近い C:目標に遠い	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
糖尿病の診断基準及び病型分類に関する学会勧告を理解し、臨床応用できる						
糖尿病の診断に必要な検査を実習し、自分でできるようになる						
糖尿病の重症度の判定ができる						
糖尿病性腎症の診断と病期分類を行い適切な食事療法、薬物療法が行えるようになる						
食事療法の理論と実際の知識を習得、実施しその評価ができる						
食品交換表の利用方法の指導ができるようになる						
糖尿病前昏睡—昏睡患者の治療の理論と実際の知識を習得						
低血糖に関する正しい知識と対応を習得する						
糖尿病性神経障害の診断と薬物療法ができる						
糖尿病性網膜症の診断と進行度が評価して、適切な生活指導、血糖コントロールができる						
個々の患者に適した治療目標の設定ができる						
経口血糖降下剤の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる						
運動療法の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる						
日本糖尿病協会や個々の施設などの患者グループの教育活動に参加し、それらの意義を理解する						
糖尿病患者のサマリーを記載保存し、患者管理ができる						
インスリン療法の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる						
糖尿病妊婦の管理を習得、実施しその効果が評価できる						
月経期の血糖管理ができる						